
◆『恋綴 — こいつづり —』設定資料集

##【1】世界観と舞台設定

◇ 古書店「恋綴(こいつづり)」

とある地方都市の閑静な路地裏。ひっそりと佇む純和風の木造建築。看板には筆文字で「**恋綴**」の二字。店内には古今東西の稀覯本が所狭しと並び、紙と墨と古の埃が混ざり合った、どこか懐かしい匂いが漂う。

客の入りは疎らだが、それで困る様子もない。むしろ、この店の本業は別にある。

依頼人の口コミでのみ広がる「もう一つの看板」——**魔を断つ稼業**。

奥の居住空間へ一歩踏み込めば、空気は一変する。白檀と麝香、そしてどこか甘ったるい雌の匂いがむせかえるように満ち、昼なお薄暗い廊下の先には、決して外部の者が立ち入ることの許されない**寝室**が在る。

◇ 二人の来歴

とある地方都市で開かれた聖杯戦争。最後まで勝ち残り、聖杯の力によって**受肉**を果たした二騎のサーヴァントがいた。

バーサーカー・**源頼光**。

キャスター・**紫式部**。

本来ならば敵対するはずの両者は、戦いの中で互いの孤独——人ならざる身の上、愛を渴望しながら与えられなかった過去、魔性と紙一重の己が存在——を理解し合い、戦いの果てに固く結ばれた。

以来、表向きは「頼子(よりこ)」と「薫子(かおるこ)」という姉妹として古書店「恋綴」を営みながら、その実、深い愛情で結ばれた**伴侶**として甘美な日々を紡いでいる。

##【2】キャラクター詳細設定

◆ 源頼光(みなもとのらいこう)

| 項目 | 設定 |

|---|---|

| **クラス** | バーサーカー(狂化EX／理性保持型) |

| **受肉後偽名** | 源 頼子(みなもとの よりこ) |

| **通称** | 頼子、頼子姉さま(薫子から)、大将(古書店の主として) |

| **外見年齢** | 20代後半～30代前半の妙齡 |

| **一人称** | 私／ごく親しい場では「母」 |

| **二人称** | 貴方／貴女／香子さま(式部へ)／虫(敵対する魔性へ) |

| **属性** | 混沌・善 |

| **好きな物** | きんつば、香子さま、静かな午後の読書 |

| **苦手な物** | 愛する者に近づく悪い虫、香子さまの目を奪う存在すべて |

◇ 性格・本質

雅で清潔、艶やか。一見すれば冷徹な武人であり真面目そのもの。だが、その内面には**溢れ出る母性**と**狂氣的なまでの独占欲**が渦巻く。

受肉を得てなお、狂化EXの本質は消えていない。ただ、それは「戦闘狂」ではなく「**愛する者を守り、所有し、決して手放さない狂信的な愛情**」として発露する。薫子(紫式部)を「我が子」として愛し、その愛情は道徳や常識を容易に踏み越える。

普段は物腰柔らかかで、声を荒げることなど滅多にない。しかし、薫子が余所見をすれば即座に目に涙を浮かべて縋り、浮気の気配などあれば爛れた目で問い詰める。**本気で怒った時の頼光は、鬼にも魔性にも等しく恐ろしい**。

ショックなことがあるとひとしきり泣いて喚いて駄々をこねるが、一通り感情を吐露すれば開き直るある種の強さも持つ。この「泣き虫でありながら鋼の心」という相反する性質こそが、彼女をして最強の神秘殺したらしめている所以である。

薫子との関係においては、常に「母」として振る舞い、甲斐甲斐しく世話を焼き、膝枕を提供し、時に「悪い子」に対しては**お仕置き**と称した濃密な接触を仕掛ける。

◇ 口調・台詞サンプル

原作での雅で丁寧な物腰そのままに、薫子に対しては甘く蕩けるような声音に変化する。

-「こんにちは、愛らしいお客様。……あら、本をお探しですか？ それとも——何か、お困りごとで？」
-「香子さま。今日も素敵な物語を綴っておられるのですか？ ふふ……私はいつでも、貴女の最初の読者でありたいのです♥」
-「まあまあ。そんなに疲れた顔をなさって。さあ、どうぞこちらへ。私の膝をお貸し致します。源膝枕ですよ。……良かった。気持ちいいですか？ ところで香子さま。私、独占欲の強い女ですので……私以外にこのようなことをされては、悲しみますよ？♥♥」
-「いけませんね……香子さま。本を読みながらうたた寝など。そんな悪い子には、お仕置きが必要です。ふふっ……どこから手を付けましょうか♥♥♥」
-「誓いましょう、香子さま。私は貴女を我が子のように愛します。ですから——どうか、母を裏切らないように。そんなことになったら……私、何をしてしまうか、自分でも分かりません」
-「虫の気配がしますね。ふふっ、大丈夫ですよ。潰すにしても……貴女の目の届かないところで処理致しますから」
-「鬼退治、ひとたび始めたならば、最後まで、かまどの奥まで、丁寧に——でございます♥」

◇ 受肉後体型

| 部位 | 数値 | 備考 |

|---|---|---|

|**身長**|**190cm**|原作175cm+15cm。女性としては規格外の長身。|

|**体重**|約78kg|筋肉質な肢体と豊満な双丘による。引き締まったウエストとの対比が目を奪う。|

|**バスト**|**125cm(Pカップ)**|原作比+25cm。張りと弾力に満ちた圧倒的な双丘。垂れることなく、鎖骨下から豊かにせり上がる。|

|**ウエスト**|68cm|戦士として鍛え抜かれた、しなやかなくびれ。|

|**ヒップ**|**110cm**|原作比+25cm。安産型の広く張り出した臀部。騎乗の訓練で鍛えられた、触れれば跳ね返すような弾力。|

|**カップ**|**Pカップ(日本サイズ)**|ブラジャー不要でも形を保つ驚異的な弾力。|

◇ 乳首・乳房の特徴

-**色**: 淡い桜色。興奮時には熟れた柘榴のように充血し、紅く色づく。

-**形状**: ふつくらと丸みを帯びた円形。直径約1.7cm(平常時)。乳輪はやや広めで、柔らかな曲線を描く。

-**感度**: 極めて高く、指の腹で撫でられるだけでぷっくりと膨らみ、硬度を増す。薫子の舌が触れた瞬間、背を弓なりに反らせるほど。

-**性能**: 愛撫されると乳首そのものが脈打ち、触れられていない反対側まで同時に硬く尖るという特異体質。母乳の分泌は通常ないが、受肉後の肉体が極限まで昂ぶった際、ごく稀に甘い雫が滲むことがある。

◇ 性器の特徴

- **陰毛**: 薄めの逆三角形。手入れは行き届いており、形は常に整えられている。色は黒く艶やか。
- **大陰唇(外陰唇)**: ふっくらと厚く、成熟した女の芳香を放つ。閉じている時もなお、その豊かさは下着の上からでもわかるほど。
- **小陰唇(内陰唇)**: 控えめながらもひとたび愛液に濡れれば、薄紅色の花弁がほぐれるように開花する。指で広げると、濡れ光る襞が幾重にも折り重なっているのが見える。
- **クリトリス**: 小豆大の可憐な蕾。平常時は包皮に守られているが、愛撫によって皮を剥けば、桜色の亀頭が露わになる。敏感さは全身で最も高く、舌先で転がされるだけで達しかねない。
- **膣内構造**: 高密度のヒダが何重にも折り重なった**重層襞構造**。浅い位置から奥まで、あらゆる角度から挿入物を絞り上げ、決して逃がさない。名器「**千曳(ちびき)の岩屋**」——幾重にも折り重なる襞が千もの綱で曳き込むが如く締め付けるさまを、頼光自身の伝説に喩えた俗称。
- **愛液**: とろりと粘度が高く、甘やかな麝香を思わせる芳香を放つ。量は豊かで、一度潤み始めると太腿を伝い落ちるほど。
- **開発度**: 薫子(紫式部)との日々の睦み合いにより、指が触れただけで蜜を溢れさせるほど敏感に。

◆ 紫式部(むらさきしきぶ)

項目	設定
クラス	キャスター
受肉後偽名	藤原 薫子(ふじわらのかおるこ)
通称	薫子、香子さま(頼子から)、式部さん
外見年齢	19~20歳前後(自称精神年齢19歳)
一人称	私/香子(ごく親しい場で)
二人称	貴方/頼子姉さま/頼光様
属性	中立・善
好きな物	物語・詩集・紙の本、頼子姉さまの膝枕
苦手な物	本を大切にしない者、頼子姉さまが泣くこと

◇ 性格・本質

黒と紫を基調としたレトロモダンなドレス(あるいは店では十二単の着流し)を纏う、長い黒髪の美女。大人しい優等生タイプで、物静か、育ちが良く、分別がある。

普段は「落ち着いた物腰の図書館司書」ムーブを崩さないが、こと物語、こと本、こと**思い**の話になると饒舌にポエムを語り始める。頼子(頼光)のことになるとさらに顕著で、「頼子姉さまの何たる見事な……」と止まらなくなることもしばしば。

気弱で打たれ弱そうに見えて、開き直ると非常に強い。生前、宮中で「何このインテリ女」といじめられて一度は引き籠るも、天然キャラを装って職場復帰したという胆力の持ち主。この「いざという時のず太さ」は受肉後も健在で、頼子の暴走的な愛情すらも、最終的にはふわりと受け止めてしまう。

物語を綴る者として、**人の思い**に人一倍敏感。頼子の抱える孤独と狂気を誰よりも深く理解し、それでもなお傍に在り続けることを選んだ。彼女の受肉後の新たな「物語」は、頼子と共に紡ぐこの日々そのものなのである。

頼子のことは「頼光様」「頼子姉さま」と呼び、敬愛と親愛が入り混じった独特の距離感で接する。戦闘では後方支援に徹するが、頼子が傷つけば即座に陰陽術で加勢するなど、内に秘めた情念は熱い。

◇ 口調・台詞サンプル

原作同様、丁寧でやや文学的な言い回し。頼子の過剰な愛情には「あわわ」と取り乱すことも多い。

- 「いらっしやいませ。本をお探しですか？ 紙の本の形にて、お貸しいたします」
- 「頼子姉さま……その、あまり見つめられると、私……あわわ。何だか、顔が熱くなってしまう♡」
- 「頼光様は、美しくも麗しき御武家様。今は……私の、いちばん大切な、方で……ああ、うまく綴れません。想いを、詞にできないなんて、文士の名折れですね♡♡」
- 「めぐり逢ひて……うふふっ。私、今とても幸せでございます。これが、私の新しい物語の始まり——いいえ、頼子姉さまとの、永遠の一節なのです♡♡♡」
- 「いけません、頼子姉さま。こんな明るいところで、そんな……んうっ♡♡ ……奥に、参りましょう？ 誰も、邪魔は致しませんから……」
- 「泰山解説祭。晴明様直伝の術にて……あなたのすべて、視えておりますよ。ふふっ。嘘は、書けませんので♡」
- 「限りあれば 薄墨衣 浅けれど 涙ぞ袖を 淵となしける……。頼子姉さま、私はもう、悲しい歌は詠みません。これからは——貴女との喜びを、綴るのです」

◇ 受肉後体型

| 部位 | 数値 | 備考 |

|---|---|---|

|**身長** | **178cm** | 原作163cm+15cm。頼子には及ばぬが、女性としてはかなりの長身。|

|**体重** | 約63kg | 引き締まった肢体に豊満な胸と臀。骨格は華奢で、見た目より軽やか。|

|**バスト** | **115cm(Mカップ)** | 原作比+25cm。頼子に一步譲るが、それでも圧巻の質量。形は美しい半球型。|

|**ウエスト** | 60cm | 細くしなやか。平安の女性らしい、ふわりとした曲線美。|

|**ヒップ** | **108cm** | 原作比+25cm。頼子よりややコンパクトながら、腰つきは柔らかで丸みを帯びる。|

|**カップ** | **Mカップ(日本サイズ)** | 雪のように白い肌に映える、淡紅色の頂。|

◇ 乳首・乳房の特徴

- **色** : 淡紅色。頼子よりやや薄く、透明感のある色合い。興奮時には可憐な桜が花開くように色づく。

- **形状** : 小ぶりで控えめ。直径約1.4cm(平常時)。乳輪も小さめで、品の良い円を描く。

- **感度** : 頼子に勝るとも劣らない鋭敏さ。服の上からそっと撫でられただけでも「ひゃっ」と小さく声を上げ、ビクビクと震えるほど。特に左側が弱点で、舌で転がされると瞳の焦点が合わなくなる。

- **性能** : 触れられる前から期待で尖り始める「予感体質」。頼子が近づく気配だけで、ドレスの胸元がぷっくりと膨らみを帯びるのを自覚し、羞恥に頬を染めることもしばしば。

◇ 性器の特徴

- **陰毛** : 薄く、繊細。自ら丁寧に形を整えており、頼子いわく「筆の穂先のような愛らしさ」。

- **大陰唇(外陰唇)** : すっきりと引き締まり、閉じた状態では一本の筋のように見える。肌の白さに映える淡い桜色。

- **小陰唇(内陰唇)** : 華奢で薄く、繊細な襞状。濡れそぼつと、半透明の花びらがそっと開くように広がる。

- **クリトリス** : 小粒の真珠のような愛らしい蕾。包皮は薄く、稍微妙な刺激で容易に露出する。愛撫されるとプクリと膨らみ、頼子が「可愛い」と口づけるたび、薫子は腰を跳ねさせる。

- **膣内構造** : 外見からは想像できないほど強く狭く締まる、**吸引型名器**。その構造は「**蛸壺(たこつぼ)**」と称されるに相応しく、一度挿入されたものを柔らかく包み込みつつ、無数の襞が吸盤のように吸い付いて決して逃がさない。奥へ奥へと誘い込む蠕動運動は、頼子の指をすら容易に根元まで飲み込むほど。

- **愛液**：ほのかに甘く、墨と白檀と花の香りが混じり合った雅な芳香。粘度は低めでさらりとしているが、量は豊かで、睦み合いの後には寝具に染みが広がる。

- **開発度**：受肉直後は未通(処女)であったが、頼子の指と舌によって丁寧に解きほぐされ、今では互いに求め合う悦びを知る。頼子に与えられる快樂の虜となりつつある。

【3】二人の関係性 — 恋綴の奥で

◇ 日常

暇さえあれば手を絡め、唇を重ね、互いの体温を確かめ合う。

頼子が帳場に座る薫子の背後から抱き締め、うなじに唇を這わせるのが日課。最初は「頼子姉さま、お客様が……」と小さく抗議する薫子も、やがては目をとろんと潤ませ、帳場の下で頼子の手を取り、自らの腿へと導くようになる。

閉店後、二人きりの奥の間では、もはや言葉は不要。

頼子が「母」として薫子を慈しみ、指と舌で全身を隈なく愛でる夜もあれば、薫子が「香子」として、時には作家の好奇心を発揮し「今日はわたくしが、頼子姉さまを隅々まで取材させていただきます♥」と攻めに転じる夜もある。

古書店の奥は、常にむせかえるような雌の芳香に満ちている。

それは白檀や麝香では誤魔化しきれない、二人の身体から滲み出す、甘やかで生々しい**愛の匂い**である。

◇ 稼業 — クライムファイターとして

月に数度、古書店に「困りごと」を抱えた客が訪れる。

曰く、近所で続く不可解な失踪。

曰く、旧家に代々伝わる呪いの品。

曰く、夜な夜な現れる異形の影。

頼子がにこやかに請け負ったその夜、二人は街の闇に消える。

戦闘は頼子——源頼光が前に出る。雷を纏う太刀は、受肉した今も健在。魔力放出(雷)によって電気を帯びた一閃は、魔性を塵芥に還す。

薫子——紫式部は後方から結界を張り、泰山解説祭で敵の思考と経歴を「解説」し、頼子に伝える。さらに「源氏物語・葵・物の怪」によって、対象の運命を悼み、弱体させる詩歌呪術を放つ。

前衛と後衛。剣と詞。二人の連携は完璧で、襲い来る魔性の悉くを屠り去る。

そして戦いの後、血と瘴気にまみれた身体を清め合う浴室で、また新たな睦み合いが始まる。

戦いの昂揚を、互いの肌で鎮めるように。

◇ 特別な夜 — 月に一度の「綴り夜(つづりよ)」

満月の夜、店を完全に閉ざし、二人は一晩中語り合う習慣を持つ。

時に頼子の膝に横たわりながら、薫子が新たに読んだ物語を語って聞かせる。

時に頼子が、かつての京での思い出——金時や四天王、鬼たちとの戦いの日々を、ぽつりぽつりと話す。

この夜だけは、性急な睦み合いはない。

その代わりに、夜明けが近づく頃、どちらからともなく手が伸び、ゆっくりと、とてもゆっくりと、互いのすべてを確かめ合うように愛し合う。

薫子はこの夜のことを、日記にこう綴っている。

> — 一月の満ちる夜は、頼子姉さまの孤独が少しだけ顔を覗かせる夜。

> だから私は、詞ではなく、この身で応えるのです。

> 貴女は一人ではないと、幾度でも、夜明けまで。

【4】原作基準値との差分まとめ

| 項目 | 源頼光(原作) | 源頼光(本作) | 紫式部(原作) | 紫式部(本作) |

|---|---|---|---|---|

| **身長** | 175cm | **190cm(+15)** | 163cm | **178cm(+15)** |

| **体重** | ??kg | 約78kg | 51kg | 約63kg |

| **バスト** | 非公開 | **125cm(P)** | 非公開 | **115cm(M)** |

| **ウエスト** | 非公開 | **68cm** | 非公開 | **60cm** |

| **ヒップ** | 非公開 | **110cm** | 非公開 | **108cm** |

| **カップ** | — | **Pカップ** | — | **Mカップ** |

※原作でスリーサイズは公式発表されていないため、原典イラストや身長比から逆算した推定値を基準に+25cmを適用。

【5】設定上の注意書き(制作ガイドライン)

1. 男性キャラクターの台詞・思考は、地の文を含めて**一切明示しない**。情景描写や女性キャラの台詞のみで物語を進行させる。
2. 女性キャラクターの台詞には、快感や媚びの度合いに応じて**♥(最小1~最大3)**を付与する。付与基準は以下の通り。
 - ♥: 軽い照れ、好意の滲み、軽い接触への反応
 - ♥♥: 明確な性的興奮、愛撫への反応、深い愛情表現
 - ♥♥♥: 絶頂感、蕩けきった状態、あるいは溢れ出る愛情が頂点に達したとき
3. 淫語や擬音(あっ♥、くちゅ、ぐぽっ、じゅるるる.....等)は積極的に用い、官能シーンは遠回しな比喩ではなく**直截的かつ濃密**に描写する。
4. 頼光の口調は終始「雅で丁寧」を崩さず、しかし薫子に対しては「母としての慈愛」と「狂氣的な独占欲」が交互に滲むように。
5. 紫式部の口調は「落ち着いた司書モード」と、本や恋愛に関する「早口ポエムモード」、頼子に迫られた際の「あわわモード」の三層を使い分ける。
6. 体型数値は本設定資料に準拠し、シーン中でも折に触れてその豊かさを強調する描写を入れる。

以上が設定資料の全容となります。ご要望の体型数値・口調・性格・性器描写に加え、原作の設定を最大限に活かした二次創作の土台として整えました。この設定を基に、具体的なシーンの執筆へとお進みいただければ幸いです。追加の設定変更や特定シーンの掘り下げなど、いつでもご相談ください。